

# 淳風小学校

絵と文 福山聖子



なにをスケッチしているのだろうか。道行く人がわたしが描いている対象物をいちべつして「ここ小学校なんや」と連れにつぶやいて過ぎていく。校門の前を通る人びとは、春なのにスタスタと歩いていく。教室のすぐ外を騒々しく車やバスが往来するまちなかの小学校でも、休憩時間となれば子らの元気な声や足音が通りまで響いていたらう。廃校になつたいまは、ひっそりと静まり返っている。だからか学校だったのも気づかず、校内の満開の桜も見上げないまま人は通り過ぎてしまふのかもしれない。

青空に、時折ピカリと光るものがある。校舎の屋上の風速計が、風向きが変わるたびに日差しを反射していた。プロペラが激しく回ると通りにも風が吹き、桜の枝が揺れる。かといつて風速計の動きに合わせて花が散るわけでもなく、ただ気まぐれにはらはらと舞い落ちる。

子連れられた女性が閉められた校門の前で立ち止まった。するとスマホのカメラで桜を撮りはじめた。ここは彼女の母校だったのだろうか。もしかすると廃校にならなければ、その子も母と同じくここに入学するはずだったのかも。そんなことを思いつつ、少し切ない春の日が傾いていく。

淳風小学校

福山 聖子 ふくやま しょうこ

京都市生まれ。嵯峨美術短期大学洋画科卒。まちや里山の古き良き佇まい、暮らしの風景などを絵と文で描いている。朝日新聞滋賀版、その他出版物に滋賀の風景をテーマに連載している。画文集「水のしらべ 琵琶湖のうた」(ナカニシヤ出版)。

福山聖子 絵知画話66題 愛知川のほとりを描く  
2019年3月9日～24日(月、火、21日休み)  
愛知川びんてまりの館(滋賀県愛荘町)  
☎0749-42-4114